

## 拠点はABK! ～アジア文化会館をベースに活躍する団体②

アジア文化会館を拠点到活躍する団体をご紹介します「拠点到ABK!」。今回はABK在館学生が発足したという歴史を持つ、日韓アジア基金さんにお話を伺います。

### NPO法人 日韓アジア基金・日本 (I Love Asia Fund Japan)



お話をうかがったスタッフのお3人。左から大澤さん、細谷さん、千葉さん

**日**韓アジア基金は2001年4月、ABK在館生で慶應大学に在籍していた韓国人留学生ウ・スグンさん(日韓アジア基金代表、上海・華東師範大学客員教授)を中心とした学生達により発足された。そのきっかけとなったのは、ウさんが初めてカンボジアを訪れた際の子供たちとの出会い。二度目の訪問で再び彼らと出会ったウさんは、そのあまりに荒れてしまった彼らの姿にショックを受け、彼らのために何かをしたいという思いを抱く。この思いと、ずっと以前からウさんの心の中にあつた“日韓の壁”に対する気持が融合、日本と韓国の若者たちが同じアジアであるカンボジアの子供たちの識字教育を支援し、それによって両国が歴史の壁を乗り越えていくことをテーマとした「日韓アジア基金」が誕生する。

そして基金設立からわずか2か月後の2002年6月に識字教育の母体となるアジア未来学校(第1校)を開校する。この第1校は1年後に手放すこととなるが、2003年4月には第2校を開校。家庭の事情などで学校に行けず、文字を読むことができなかった子供たちに識字教育を施し、修了後に隣村にある公立の小学校に入学するという道を歩ませている。

現在設立時の中心メンバーは全て現場から去ってしまったが、新たな中心スタッフのもと組織は発展、昨年3月にはNPO法人となった。会の運営を行う約10人のスタッフは、学生を中心としたジュニア班と社会人やリタイア組を中心としたシニア班という二つのカテゴリーに別れ、それぞれがお互いを補完し合いながら絶妙のコラボレーションのもと活動を展開している。

また韓国には協働のパートナーである韓日アジア基金(韓国)がある。

- ・活動会員29人、賛助会員100人。その他、法人・個人の寄付金協力者20名(2006年2月現在)
- ・年会費 活動会費5000円、賛助会員1口5000円
- ・連絡先 〒113-8642 東京都文京区本駒込2-12-13 アジア文化会館(ABK)内  
☎090-4456-2942(大澤) Fax 03-3946-7599(ABK) e-mail iloveasia@ml-b7.infoseek.co.jp

●現在まで学校を2校をつくられたわけですが、1校目は1年で現地に引き渡されたんですね。

大澤 第1校目の1周年記念シンポジウムを日本で開催したのですが、現地の理事長兼校長先生が日本に来て学校の運営は全部自分がつくったNGOでやる、お金の報告もしないと言い出したわけです。私たちとしては、それではドナーに対して説明がつかないということで結局手を引くことになりました。言い方を変えたと取られてしまったとも言えるのですが…。その後、2校目を作ろうということになったのですが1校目の反省がありますから、今度はプノンペン市教育・青年・スポーツ局と学校の建設場所など、十分に話を詰めたうえで実施しました。そして2003年の4月から第2校を始め、これが今日まで(約3年)続いています。

●どのような場所に造ったのでしょうか

大澤 プノンペン市郊外にあるアンロンコン・タマイ村というところで、ここはいわゆるカンボジアの農村ではなくて、プノンペン市内のスラム街が火事で焼けてしまい、そこの住人がある部分強制的に移住させられた村なんです。ですから普通の農村とは全く違い、学校も無ければお寺も無いようなところなんです。その隣のプラッカー村には公立の学校があり、村の半分くらいの子はそこに通っていたのですが、残りの子供たちは、(表向きは)お金が無いなどの理由で行って行かなかったわけです。そんな子達がアジア未来学校に通ってきているわけですが、しばらくすると隣村の公立小学校に通い始める。なぜかと言うと字が読めるようになったからなんです。

現地の元日本人スタッフが私たちの学校は“滑走路”だという言い方をしていましたが、まさにその通りで、アジア未来学校の目的は識字カリキュラムを行い、修了した子を公立小学校に通わせるというものなんです。

●どのくらいの子たちがこれまで公立小学校に移っていったのでしょうか?

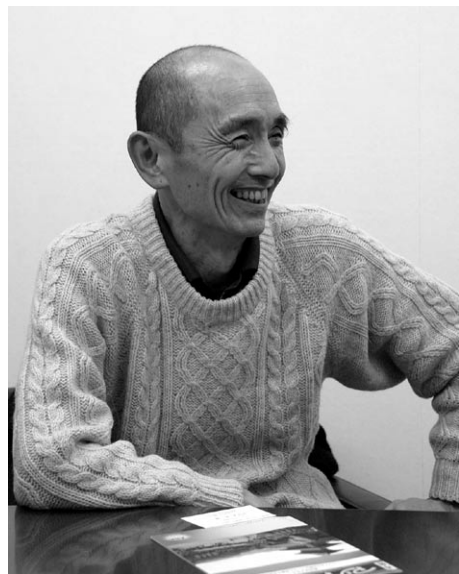
大澤 これまでで計65人になります。余談ですが、隣村の学校に行った子を調べてみると、うちから行った子が一番できる、みな成績がいいんですね。逆に言うと公立小学校の授業はあまり良くないということです。

●先生は特別な方なのでしょうか?

大澤 先生はプノンペン市教育局の推薦でもう一つの隣村であるアンロンコン村の現役の小学校の先生に来てもらっています。午前中は公立小学校で教え、午後はうちで教えている。カンボジアでは当たり前のことなんですね。当会の給与は月30ドルくらいですが、村の小学校は15~20ドルくらいで、しかも遅配が多いそうです。ですから先生のモチベーションも違うのではないかと思います。

●現状問題はありますか?

大澤 実は昨年秋ごろ、この村に外国のNGOが入ってきて、公立の学校に通う子にはお金を支給するという活動を始めたんです。先生にお金を預けておいて、子供が毎日来るたびに少しずつ渡すんですね。ですから、うちの学校に来ていてまだ識字課程が終わっていない子供たちがみな公立小学校に行ってしまったんです。開校して約2年間、昨年の4月までは生徒数は常時120人~140人くらいの間で変動していたのですが、現在の生徒数は26人です。一時7人になってしまったこともあります。それが増えたのは午前中公立学校に通い、午後うちの学校に来る子が出てきたということと、先生が教えているアンロンコン村の小学校から来る子供が出てきたということです。それは先生自身がどう見てもうちの学校の方が教育がいいということで、字が読めない子供を誘ってくるという感じなんですね。



大澤龍（おおさわりゅう） 理事、庶務・会計担当  
元いすゞ自動車社員。2002年より参加。  
日本人は朝鮮半島に借りがあると思っていたという大澤さん。朝鮮半島からは文化をたくさんもらっているのにこちらからの貸しは何も無い。そのため何かを返したいと思っていた時、日韓アジア基金の発想を耳にし共感、会員になる。ところが入会後すぐに第1校の引き渡し問題が発生。事後処理に戸惑う学生スタッフの姿を見かねた大澤さんはその処理を手伝っていくうちに、曰く「泥沼に落ち込んだ」。現在ではスタッフの中心人物として欠かせない存在になっている。入会当初は日韓の関係だけで、カンボジアのことはあまり頭になかったという大澤さんだが、入会から3年半、今ではカンボジアのこの子達をなんとかしてあげたいという思いでいっぱいだという。

細谷 この地域におけるアジア未来学校の位置づけというのが流動的になっていると思うんですね。本来それをすべき村でその役割を100%担えない状況になっている反面、予想外のところで今まで目指していたことが機能しはじめた可能性がある。ただ今すべきことは、現在のアジア未来学校の質を落とさずに、ニーズがあればいつでも答えられるだけの、そういった質というものを常に意識していこうという状況だと思っています。

●今後の展開ではどのようなことが考えられますか。

大澤 具体的に話が出ているのは3つです。一つは今も話に出たもう一つの隣村であるアンロンコン村の出来ない生徒をもっと受入れて、彼らのレベルを上げて行くこと。

二つ目は図書館活動で、図書館をつくり、本を置くだけではなくて、読み聞かせをすることで子供に本に対する興味を持ってもらうということです。識字教育で文字が読めるようになっても、読むものがないと忘れてしまうんです。ですから、アジア未来学校で図書館活動のまね事をやってみようじゃないかと。プラッカー村の公立小学校でもそれができないかと思っているのですが、こちらは公共の機関ですから簡単ではない。

三つ目はアジア未来学校がその村にあること、それ自体が村人のマインドアップに凄く寄与しているようなんです。ですから、心ある親、教育が大事だと思っている親はアジア未来学校が村にあること自体に意義を感じてくれています。また、教育というのはボディープローのように利いてきますから、生徒が減ったからと言って、簡単に止めてしまってもいいものではありません。そういう意味でも「継続は力なり」を信じていきたいというのが今の考えです。

●発足時のメインテーマである「韓国との協働」という部分はどのようにされているのでしょうか。

細谷 日本側には若干韓国人スタッフがいますが、韓国側の活動はほとんどゼロなんです。韓国側、「韓日アジア基金」と言いますが、設立当初は割と活動していたのですが、今は日本だけが活動しているという状況です。それは向こうのメンバーそれぞれの住所がかなり離れているということや、みな学生で就職活動の時期に来ているという理由もあります。



◀ 代表のウ・スグンさん



◀ アジア未来学校校舎（第二校）



▼ 教室での授業風景

**大澤** 私も最近分かったのですが、韓国側のメンバーは日韓交流を目的にしていたんですね。我々としてはある段階から学校を維持・経営することが最優先になってしまった。ところが韓国側は日韓交流が主なテーマであり、例えば映画会などのイベントを開催したりといったことをやっていたそうです。ウさんの理念は「日韓が協働してアジアに貢献する」ですから、当然カンボジアのことは重要なんですけど、彼らはその思いが弱かったというか、あまりミッションが何かということは考えていなかったんですね。

ただ、以前韓国からの企業駐在員の方が2人、1年弱ほど日本事務局に参加してくれて、彼らとは非常に仲良くなりました。彼らがいる間は「協働」という看板に背かない内容だったと思います。もちろん韓国に事務所があって両国のメンバーと一緒に何かできればいいのですが、そこにこだわる必要は無いのかなど。そういう意味でも今は在日の方をうまく引き込めないかと思っています。

**千葉** 私も初めてスタッフミーティングに参加した時、韓国の言葉が一言も出てこなかったの

で、ちょっとがっかりした覚えがあります。また、知り合いの韓国の人たちに声を掛けて一緒にできたらいいかなと思っていたのですが、いざ声を掛けてみると、思ったほどボランティアに関心を持ってもらえない。強制するものではありませんから、そう考えると難しいのかなあと思うんですね。ただし、「日韓」という名前に魅かれて会員になって下さっている方の気持を考えると、そこは安易に切ってはいけなところだと思えます。

**細谷** 日本の組織は当初、学生が中心になって活動していたわけですが、今のメンバー構成は学生であり社会人であり、リタイアされた方でありという非常に重層的な組織になっています。一方韓国は学生のままですからウさんのような引っ張って行けるリーダーがいなくて難しい。これは日韓アジア基金として大きな問題でありそれを認めて補完していかなければならないと思っています。

**大澤** その駐在員の方は、韓国は儒教の社会だから、年寄と若者が対等でやるということ、若い人が年寄に意見を言うというのは文化的に無





細谷 恭一郎（ほそやきょういちろう）スタッフ  
筑波大学第一学群社会学類1年次。2002年より参加。  
中学生の時から日韓の歴史について関心を持っていたという細谷さんは、「実際に話してみる、見てみなければ何もわからない」というポリシーのもと、高校一年生の時、東京―ソウル間の高校生テレビ会議に参加をする。ここで講師として訪れていたウ・スグン氏と出会い、「両国の若者が同じ目標の下、前向きに進むことでお互いに近づいて行く」という基金の趣旨に賛同、活動に参加する。途中大学受験の為に約2年間のブランクを置いても大学入学後に復帰。メンバーががらりと変わり、会の様子が変わっていたことに戸惑いを感じるも、新たなメンバーによる世代を超えた“協働”にも確かな手応えを感じているという。また韓国支部メンバー達と同世代であることを生かして、今後も「日韓の協働」にはこだわっていきたいと語る。

理なのではないかと言っていました。うちのミーティングに参加して、「信じられない」と驚いていましたから（笑）。

### ●みなさんそれぞれのこの日韓アジア基金を通じての夢はなんでしょう。

千葉 アジア未来学校に通っていた子供たちが進学して勉強を好きになってもらい、いろいろなことを知ることで世界を広げて欲しい。そして社会に出て、学んできたことを村やカンボジアに返してくれる。長い目で見た時に、そうい

う成果が見られたらいいなと思っています。  
細谷 僕は小学校の頃に字を習い、その結果本を読めて、読んだものによって考えることが出来て、素直に良かったなと思っているんです。それと同じことをカンボジアの子供たち一人ひとりが将来感じる事が出来ればそれでいいかなと思います。カンボジアの一人でも多くの子供たちが文字を読めるようになり、彼らが何らかの形で発展したカンボジアを築くことが出来る。振り返った時に、今の僕たちの活動はその礎になったんだなと思えばそれでいいのかなと思います。

韓国に関しても同じことで、まだ韓国に対するパイプというのが太くなっていませんが、それを太くすることが僕らの仕事だと思うし、それをやった結果、日韓両国の関係の中で、後々、あの時こういった活動をやっていて良かったという評価をしてもらえればいいのではと思います。

大澤 日本は明治維新でなぜうまくいったのかというと、識字率が世界で一番高かったというのが大きな理由です。だから、国民の識字率が上がるということはきっとその国の国民にとってはハッピーなことなのではと思うんです。少なくともアジア未来学校に通う子供たちのように都会にいて字を知らなかったら、暮らして行く上で圧倒的に不利になります。そういう意味では識字教育が一番易しい国際貢献、やることに意味があることがはっきりしていると思います。

そしてさらに先程出た図書館活動を何とかこの学校や隣村の学校で定着させたい。アジア未来学校をつくった周辺の地域で、なるべく多くの子供が文字を覚えて本を読むのが好きになり、本当に文字を使えるようになることが私のやりたいことです。図書館活動を行っている先輩団体に聞くと、そういう子は自立心が上がっ

てモラルも上がるというわけですよ。日韓協働も難しいけど、これも難しいんです(笑)。でもそれが、この子達にとって一番ハッピーなんじゃないかと思うんです。

●今、この活動に参加して良かったと思えることはどんなことでしょう。

細谷 少なくともここは「現場」ですよ。大学に現場はないと思うんです。何か興味を持った時に理屈から入ってもいいし、行動から入ってもいいと思うのですが、それらがうまく車の両輪になっているな、という実感を持っているということ。実際に目の前で起きている変化を見て、これは効果的だなと今の観点で見て思えるということ。それが一番大きいですね。

千葉 私は大きい団体に入らなくて良かったと思っています。子供たちの反応はもちろん、子供たち一人ひとりの名前だって知ろうと思えばわかるという、そういう状況というのは手応えもあります。私たちジュニアはフリーマーケットをして資金集めをしていますが、そのお金が直接子供たちに行っているという実感がすごくある。向こうの教室の様子のビデオを見せてもらった時に、大きい声で楽しそうに勉強している子供たちの姿を見て、私たちがやっているのはこれなんだと、活動の意義を物凄く実感できたんです。こういう団体で良かったと思います。

大澤 最初のメンバーはこの基金を作って、あっという間にいなくなってしまったわけですが(笑)、彼らが無謀にもこれを始めなかったら、少なくとも65人の子は字を覚えなかったわけです。字を覚えなまま大人になってしまっていた可能性が高いんですね。それは大変に大きなことだと思っています。

それからまったく違う次元で、私の立場からすると、こういう若い人たちと一緒にやれること自体がすごいハッピーなんです(笑)。僕の友人などでもそういう人はなかなかいません



千葉 眞衣子(ちばまいこ) 副代表理事

ABK日本語コース講師。2004年より参加。

学生時代からアジア各国を旅していた千葉さんは、旅先で出会う、ただモノをねだるだけで自分たちの名前さえ満足に書くことができない子供たちの未来を憂慮する。彼らの世界を広げるためには教育が必要と強く感じた千葉さんは、そうした支援活動を行っているボランティア団体を探すものの、なかなか「これ」というところに出会わずにいた。一方で韓国人の友人との歴史問題に関する会話の中で衝突が生れ、話せば話すほど溝が深まって行くというジレンマを経験。そんな時偶然日韓アジア基金のホームページを発見。ライフワークとしてやりたかったアジアの子供たちの教育と、日韓の若者が同じ目標を達成することで喜びを分かち合えるという考え方に「これだ!」と参加を決める。

から。

もう一つ、ABKにお世話になっていることですが、大変ありがたいと思っています。こんな弱小団体でも、「事務所はどこですか?」と聞かれて、ABKだと答えればみんな知っていますからね(笑)。いい加減な団体じゃないと思ってもらえる。それはとてもありがたいことで、感謝しているんです。

〈インタビュー 2006/2/1〉